

## 緒言

奥田 太郎

二〇一一年の夏から秋にかけて、澤木勝茂氏、高橋広次氏、小林傳司氏の三者に、それぞれの所長在任中の社会倫理研究所活動に關するインタビューを行なった。あらかじめ用意しておいたこちらからの質問事項は、以下の通りであった。(1) 当時の社会倫理研究所の状態を含めた、所長就任の経緯はいかなるものであったか。(2) 所長として研究所活動をどのような方向に進めようとしていたか。(3) 社会倫理的なものを取り巻く状況はこの十年間、二十年間どのように変化したと考えるか。(4) 地方私立大学の研究組織としての社会倫理研究所にはどのような生き残りの道がありうるかと考えるか。基本的にはこれら四つの質問事項に答えてもらう方向で三人の歴代所長との対話を進めた。今回のインタビューを快諾して下さり、率直なコメントも交えながら、当時の社会倫理研究所の様子を語って下さった三人の歴代所長に感謝の意を表したい。

インタビューを読んでいたただければ一目瞭然であるが、三人の歴代所長の専門領域は、オペレーションズ・リサーチ、法哲学、科学技術論とそれぞれまったく異なっている。このことは、個人的に

は、実に社会倫理研究所らしい特徴であるように思われる。少なくとも、所属学会がまったく重複しない人たちであることは間違いない。しかしながら、三者ともに、社会倫理研究所という一つの研究所の所長を務め、任期中にそれぞれ重要な仕事を残し、彼ら全員が現在の社会倫理研究所の活動の下地を培ってきたということは確かである。おそらく、他の研究所ではあまり見られないと思われるこうした興味深い雑種性は、様々な事情ゆえの偶発的産物であることは間違いないのだが、今となつては、社会倫理研究所の性質を方向付けるものだったとも後知恵的に言えるし、研究所の長所を構成する要因だとも考えられるのではないかと私は思っている。小林傳司氏のインタビュー中の言葉を換骨奪胎して言うならば、社会倫理研究所活動は、結果として、設立されて以降「ディシプリン・オリエンテッド」な制度的制約を微妙に逃れつつ展開してきた、と言つてもよいかもしれない。今回のインタビューを経て、今後、こうした雑種性がより生産的な研究所活動につながるように、現在の研究所員との共同作業を通じて研鑽したいという思いを強くした次第であ

る。

さて、三人の歴代所長は、それぞれの記憶をたよりに社会倫理研究所の活動を述懐している。それゆえ、多少の事実誤認や証言の食い違いは存在しているかもしれない。事実誤認についてはある程度まで確認と修正を試みたが、証言の食い違いについては、三人それぞれの視点から語られた経験内在的事実を立体的に再構成しうるものとして、積極的に捉えていただきたいと考えている。なお、私が社会倫理研究所に着任した二〇〇三年以降の研究活動については、オンラインで公開されているニューズレター（二〇一一年現在休止中）で知ることができるし、また、二〇〇七年以降の活動については、研究所活動報告の媒体として二〇〇八年に新たに刊行し始めた『時報しゃりんけん』で確認することができるため、今回はあえて語り起こすことはしなかった。

今回インタビューをとることのできなかった歴代所長について触れておきたい。初代所長の森茂也氏、第二代所長の阿南成一氏とは、諸事情により会見することが叶わなかった。また、第三代所長の故・松山昌司氏は、今回のインタビュー中でも言及されているが、一九九三年九月に急逝なさったため、その声をお聞きすることはもはや叶わない。お三方ともに、社会倫理研究所の屋台骨を築き上げた方々であり、何とか過去に活字化された彼らの研究所論を再掲しようと大学史料室を訪れ史料を当たってみたが、残念ながら探し当てることができなかった。言うまでもなく、お三方の重厚な論考群の幾つかは、過去の社会倫理研究所刊行物の中に掲載されている。

る。しかし、それらさえも目下絶版状態であり、新しい読者を得られずに置かれているのが実情である。これらの論考群についても、近々、多くの人たちにアクセスしていただけるように取り計らいたいと考えている。そうした状況の中で、初代所長の森氏が記した研究所設立時の趣意文に相当する記事を発見することができた。設立当初の熱気が伝わってくる内容である。是非ご一読いただきたい。

今号の特集は、社会倫理研究所にとつてはもちろん重要な史料となりうるものであるのだが、研究所に直接関わりのない読者にとつても、この三十年間における「倫理」を論ずる人々の集団の営みなどのように変遷してきたのが窺い知れるような、興味深いものになっているはずである。こうした記録を残し、誰もが読むことのできる形で保存することは、それ自体、未来の人びとに対する倫理的な営みであるだろう。ささやかながら、今号の特集がそうした営みに参与するものであることを願っている。